

次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては兵十のうちへ持って行ってやりました。その次の日には、くりばかりでなく、まつたけも二三本、持っていきました。

【授業記録】

どうして、こんなに毎日持っていくんでしょう。

智昭 いつも同じものだったらあきるし、いろいろなものをもっていく。

T いろいろ兵十に食べてもらいたいから。

悟司 兵十のおっかあが死んだ時のことが忘れられないから、くりやまつたけをいっぱい持っていてもまだ足りないと思ってるし、兵十もごけと同じひとりぼっちだから、持っていくってくりでも食べてもらいたい

T 悟司がようけいわったね。今、悟司君がいわたの、うんわかった、いう人。……短く、もういっぺん言ってくれる？何で、こんなに毎日もってくるんだって。ひとつは、おっかあが？

悟司 おっかあが、死んだときのことが忘れられないから

T はい、ストップ。兵十のおっかあが死んだことがわすれなくて、持っていく。そこは、わかる？

C……

大裕 殺してしまったような感じがするから。

T はい、もう少し、後ろのお母さんにわかるように言って。

智将 兵十のおっかあ最後の頼みを聞いてうなぎをとってきたのに、そのうなぎをごんが川へにがしたから、自分のせいで殺してしまったような気がする。

T そこ、もういっぺん読んでみましょうか。西津君、どこ読んだら書いてある？(宏 64ページ)そこ、読んでみて。

宏 読む 「おっかあにうなぎを食べさせることができなかった。そのまま……ちよつあんないたずらをしなけりやよかった。」

T こんどは、わかったね。自分がつまらないはずらして、そのためにおっかあにさいごにうなぎぐらいたべさせてやりたいなあ、て思ってた兵十の心をつぶしちやって、そのことが、心からはなれなくて、ほんで、そのおかえしに持っていくんだ。そういうことを悟司くんは、言いたかったんだね。はい、これが一つ。

それから、まだ、こんなこと考えた、という人。

治武 ごんが毎日兵十にくりやまつたけをあげるのは、兵十はおっかあに死なれて、自分と同じひとりぼっちやさかいに、ごんは、兵十をかわいそうに思って毎日持っていくってやったと思う。

T 今、治武君のいわったのわかった？ちよつとちがうね。なんか、兵十が、かわいそうでならないからもっていったんだ。そういう人。

龍法 あんな、兵十も同じひとりぼっちやさかいに、いいものとかもっていったるの。

T 兵十は、ひとりぼっちだから持っていく、てどういうこと？

祐子 ちよつとちがうかもしれないけど、ごんは、いつも兵十の顔を見ていても、なんか、このごろは、いつもしよんぼりして笑顔の時がないし、なんか、ごんも一人ぼっちだから、見ていると、なんか、ごんまで寂しくなってくる感じ。

T ……わかる？兵十は、おっかあが死んでから、さつもいもみたいな元気な顔がしおれて、しよんぼりした、そういうのを見てみると、ごんまで、悲しくなってくる。だから、持っていく。……だれかわかる人な

い？邦臣君、どう？

邦臣……

智将 ひとりぼっちの時のさみしさを思い出して、そのことで、何か寂しくなる。

T ごんも、ひとりぼっちでしたね。ごんも一人ぼっち。だから、ここでぼつんとしょんぼりしている兵十を見ると、自分のひとりぼっち。ごんも一人ぼっちでつらい思いをしたことはいっぱいあったでしょうね。

朝子 兵十は、お母さんが死んだときもまだいたから、ごんは、初めから一人ぼっちだから、兵十のほうがかわいそうだから、

T うん。ここまでは、楽しかったんだよね。まじしかったけど、おつかあと二人で、なごやかにくらししていたのが、死んで、一人ぼっち、そんなのを見ていると、ずっと一人ぼっちでできたごんには、自分よりももっと兵十がかわいそうに見える。だから、持っていくんだ。……だいで出てきたね。まだ、考えた人、なかった？……

公美 兵十のほっぺたにかすりきずがついたのは、自分のせいだと思つて、今、ごんの気持ちにはかわいそうでいっぱいだったから、次の日もその次の日もくりやまったけを持っていた。

T また、ちがうこといいましたね。今公美のいったのわかった？

これだけ(うなぎ)でもつていくんじゃないかと、まだあるんだ。

かすりきずが……

有香 ごんは、しんせつ、ていうか、兵十にいわしをあげただけで、それが、反対にいわしやの人にぬすびとと言われたので、……

T 今、有香が言ったようなこと書いといた人、いたでしょう。出して。なつ希 うなぎのかわりにいわしを持っていったけど、だめだったから、それ以上は、よけいに、うなぎといわしのおれいがしなければならぬ明代 ごんは、なんか兵十が喜んでくれることをしたかったんだけど、したかったから、いわしをなげこんでいったんだけど、反対に兵十はよるこんでもらえなかった。よろこばないでなんか、してほしくない。

T ここで、いわしをとつて、ほりこんでいったんやね。いわしやから、ばつとぬすんできてほりこんだのは、いたずらでしたか。てつや君。いたずらじゃないね。どうしようと思ったの。

勝仁 お礼

美由紀 うなぎのつくない。おれいのつもり。

T うんそうやね。おれ、こんな悪いことしちゃったから、なんとか、兵十におわびしようかなって、だから、いわしでも食べて元気になってくれというつもりで、やったらその結果がどうなったんだ？

勝仁 いわしやにぶんなぐられたん。

T ぶんなぐられちゃったんだね。なんで

C ぬす人と思われて。

T ほうりこんだら、この兵十がぬすんだと思つて、いわしやにぶんなぐられて、かすりきず、きずまでつけられちゃった。だから、もつていくというの？もう言えるでしょ。

宏 うなぎのいたずらじゃなくて、いわしをなげこんでぶんなぐられたこともあるから、次の日も。

T うん。これだけじゃなくって、その上にまた悪いことしちゃったからほんな、ちよつとぐらいの(宏 おかえしじゃすまん)おわびじゃすまん。すまん という気持ちか次の日も、次の日もになるんだ、ていつてるのね。

ほうすると、いくつ考えがでてきたかね。

今一つでたのは、兵十にまたしても悪いことしちゃったから持つていく

子どもが「お礼」といつているのは、「おわび」の意味で使っている

て考え方した人がいるね。そういうふうにした人手上げてごらん。

それから、二つ目は、そういうこともあるけど、失敗したことのおわびということもあるけども、もう一つは、ごんと兵十が同じひとりぼっち

C 友達

T うん、いいこというね。同じ、一人ぼっちだから、友達みたいに見え
これが、全然関係ない他人じゃなくって、同じ一人ぼっちどうしだから、よけいにかわいそうに見える。そんなことを言った人がいますね。
一人ぼっちのさみしさ、かなしさを自分が体験して知っている。だから
この兵十の一人ぼっちの悲しみがわかる。

ここも「そういう考えも分かる人」と確認してもよかった。

で、もう一つここで、考えてみたいのは、

次の日も、その次の日も、その次の日は、となっているでしょ。この間もっていくごんの気持ちには、ずっと同じでしょうか。少しかわってきていることもあるのでしょうか、と考えてみてください。読んでごらん。

C……

T ずっとおんなじだったという人

少し変わってきているんじゃないかなと思う人（C挙手）

それは、どの言葉を読んで、そう思いますか。

優子 ごんは、くりをもって行ってやりました。

T 最初は、くりをもって行ってやりましたよね。だから、

優子 兵十の顔を見ているといつも何回もおおかえしがしたくなる。

あとからは、

T あとはどうなってる。「もって行ってやりました」てなってる？

読んでごらん「その次の日には、くりばかりでなく、まつたけも、二三本もって」（C 行きました）「行きました」になっただけでしょ。

ここ、ひとつ変わってきてますね。どうしてだろう。ここには、何があるんだろう。と考えて下さい。

勝仁 まだ違うんやて。

T まだ、違うのがあるでしょ。

くり。くり。くりばかりでなく、まつたけ。

ここのごんは、どういうふうにかえるといいかね。宣彦君。

宣彦……

美由紀 「もっていきました」だと、もう友達で、なれなれしくしている
ようで、そこでは、もうほんとの友達なん。

T すごいこといいましたね。だんだんなれなれしくなっている。

ほう、そこ、友達のをもらって考える。

はい、直也

直也 あのな、ごんは、兵十のためじゃなくて、自分のためにもっていつてる。

T ……またすごいこという。

さつき、みんなは、兵十のためについていったよね。だけど、直也は、こっちの方へ来ると、何て言った？兵十のためじゃなくって

宏 じぶんのため

T どういうことでしょうね。

大裕 友達にもなってほしい。

勝仁 仲間になってほしい。

T 仲間になってほしいという気があるの。どういうことでしょう。

洋志わかる？

智将 友達になってほしいから、そのことをくりやまつたけをもっていて通じてほしい。

宣彦は書き込みで、「どんどん楽しくなってくる。」て書いていた。それをてださせて展開のきっかけにしたかった。

・美由紀の発言ももつと生かされたの
にと思う。

ここは、こういう読みを強調すべきではなかった。むしろ、無償の行為、ごんの素朴な喜びとして読ませるべきだった。

優子 友達になってほしいのもあるし、兵十を見ていると自分もかなしくなるから、自分のためにも持っていく。

T ふーん。……

「持って行ってやりました。」だと、どういう感じがする？

C 兵十のために。

T 兵十のためにしてやる。わざわざしているという感じだね。

でも、「持っていきました」だとそういう感じがしないね。持っていくうちに、

明代 初めはごんは、自分が兵十が元気になってほしいから、自分だけでもっていったんだけど、その次の日には、なんか、兵十のほっぺたにかすりきずがついていて、自分はよろこんでくれると思ったんだけど、なんか、兵十は、べつによるこんでいなかった。今度は、よろこばしい。

T うん。それが出発やる。だからこんどこそ、と思って持って行ってやるわけでしょう。それが、最初は、くりばかりだったのが、くりばかりでなくまつたけももっていく。これは、智昭くんがいろいろ食べてもらいたいとっていったんだけど、どうしてだんだんもっていく物がふえるんだろう。……

宣彦君、これを持っていつてる時のごんは、どんな顔が浮かぶ？

みんな、そこ浮かべてください。ごんは、毎日持っていつてるね。龍法 どんな顔が浮かぶ？にこにこしているごんが浮かぶか、すまないなもっていくごんが浮かぶか。

「すまないな、」てしずんだ顔が浮かぶっていう人（Cなし）

じゃ、ここ、にこにこしてなんかはずみがあるってのが浮かぶ人

（C多数）

どうして楽しいんでしょ。

和樹 いつもくりをひろってるからくせになってるから。

紗織 ごんは、兵十がうれしがるのを楽しみにし、ごんは、持っていく。

T 今いいこといったね。ちよつと出てきたね。

祐子 それが、なんか、友達どうしで、やることがあたりまえって感じでなんか人のためにやってるのが、とてもきうきする。

智昭 くりを持っていくときに、兵十のにこにこする顔が浮かんでくる。

T ええこといった。もっていくときに、ごんは、兵十のにこにこした顔が浮かぶ。

治武 ごんは、そのくりやまつたけをもっていったら、きつと兵十は、よろこんで、元の顔にもどって喜んでくれる。

朝子 ごんは、初めから喜んでくれると信じている。

T これ、もっていったら、きつと喜んでくれるだろうな、と思って持っていくますね。で、兵十の家に行く。見えないところだけど、置いていくね。次の日、またひろって持っていつてるね。きのう持っていったくりはそこに残ってるわけ？（残ってへん）残ってへんでしょうね。ほど、また置いていく。次の日も行ってみると、持っていつてあったくりがきれいになくなっている。そんなことが続いていくと、ごんはどんな気がしてくる大裕 うれしい。

朝子 兵十は、もうがっかりした顔じゃなくて、元気になってきたなあて思う。とてもうれしくなる。

T だんだんうれしさがふくらんでくる。

和樹 苦労してくりをもつていったから、食べてもらえるところらしい。

T 苦労やね。苦労して山でひろったくりを兵十が食べてくれる。ほど、やったかいがあつてうれしくなるね。

智将 だんだん赤いさつまいもの色になってくるのを見てみると、うれしくなる。

T うん。で、さつき直也がいったこともういっぺんかんがえて。やっていつているうちに、自分のためにしているような気がしてくる。明代 ごんは今まで、人が喜んでくれることをしたことがなくて、兵十に初めて親切にして、やさしくしてあげたから、なんか、それが、自分でもうれい。

T わかる？今までごんは、こんなことしたことがなかった。

朝子 ごんは、初めて兵十のためにいいことをしたから、だから、自分の悪いことしたのも今は許してくれると思っただろうし、それに、ごんは自分のやさしさが自分でもうれい。

T なんやて、自分でできていることが自分でもうれい？

大裕 前までは、嫌われてたけど、……今は、ごんでは、嫌われてへんと思っ。

T もう、今までのごんとちがう。

優子 前まではいたずらばかりして嫌われていたけども、兵十にいわしをなげこんでから、少しでもいきつねになつたから。

有香 ごんが、人に親切にしたことがないさかい。うれい。

T 何？もういっぺん言っ。

有香 ごんが兵十にしたことは、自分でもうれい。

智昭 ごんが初めていいことをするから。なんか、一つの訓練になる。

T 今までは、人にいたずらして、うさばらしして毎日があつたんだね。

それが、今、相手のために一生懸命になって、それが、喜んでもらえるそれが、自分でもうれいんだね。